

さい、議会だより



観光の拠点アルサス

3月定例会

議員報酬を自ら引下げ … 2ページ

随意契約は妥当か … 4ページ

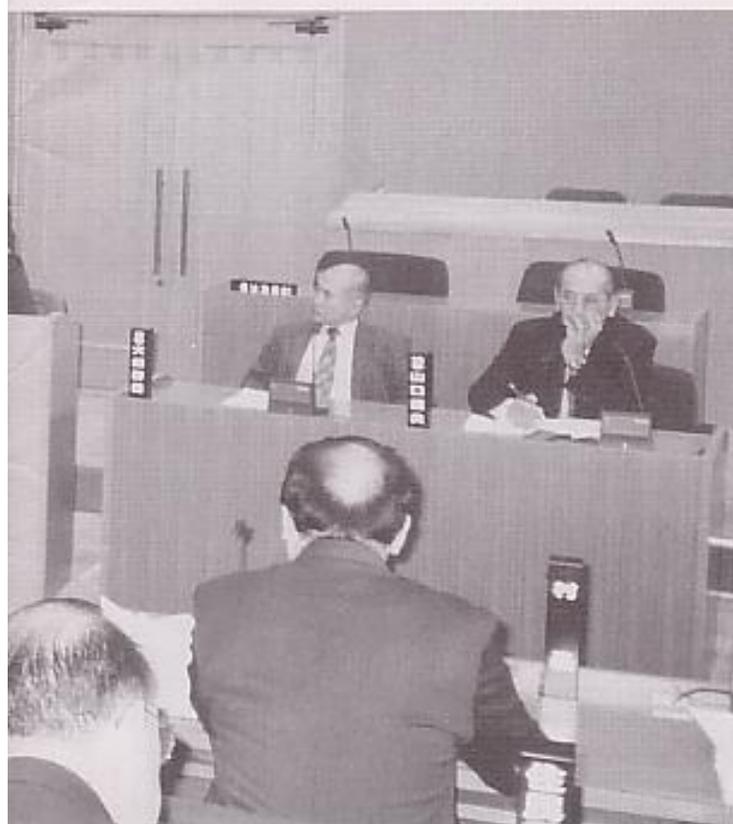
一般質問に6人登壇 … 9ページ

自ら引下げ

経費の節減を図るため日当も

三月定例会初日には、議員発議(議員が議事の対象となるべき問題を議長に提出)により非常に厳しい財政状況を踏まえ、議員自ら経費の節減を行うため、国外旅行を除いた議員の日当の額を三千円から一千円に削減する条例を可決しました。

また、本会議最終日には、今回提案された平成十四年度各会計の予算案、特別職の給料を削減する条例案の提案理由の説明を重く受け止め、平成十四年度の議員の報酬を月額七千円削減する条例も全会一致で可決しました。



議会傍聴された方々も熱心に耳を傾けた一般質問

十四年度の幕開け
厳しさ増す予算でスタート

平成十四年三月議会は、三月四日から七日まで四日間の日程で開かれました。

今定例会には、六課から機構改革による五課に変更する課設置条例ほか十五件の条例、十四年度の一般会計当初予算をはじめ五特別会計が特別委員会で細かく審議され、三月六日の総括審査において原案のとおり可決しました。

(関連記事は6ページから)
また、六名の議員が発壇し、一般質問が行われました。

議員報酬を自



陳情 1 件を採択



今定例会では「雇用の危機突破を求める陳情」を採択し、関係機関へ意見書を提出しました。



佐々木寛昭氏

人権擁護委員の佐々木寛昭氏の任期が、五月三十一日で満了するので、引き続き同人を推薦しました。

人権擁護委員に
佐々木氏を推薦

佐井地区地域水産物供給基盤整備事業工事

随意契約は妥当か



防波堤（ケーソン）製作工事現場

田中正行議員
昨年、南床シイタケ栽培発生ハウスの工事の随意契約の疑問問題で、今後、随意契約はできるだけ行わず、指名競争入札で行なうという答弁であったが、今回、随意契約をしなければならなかった理由とはなにか。

地元雇用に配慮

村長

今回は五社を指名し入札に付したが、予定価格に達しなかった。本来、指名業者を入れ替えて再入札することになるが、地元雇用に配慮し、最低入札業者の細

川建設と予定価格以内で随意契約をした。

予定価格公表に踏み切るべき

後藤議員

県の各機関では、全ての工事で予定価格を公表している。

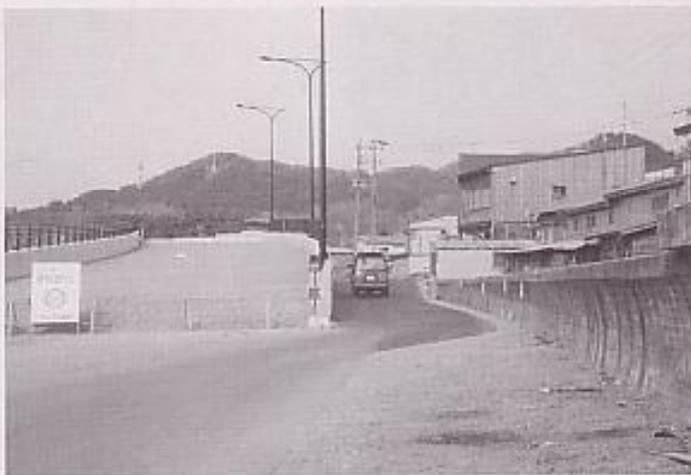
その目的は、入札の透明性を高めること、参加業者の積算能力の向上を図ることが主な理由だと考えられることから、当村でも予定価格の公表に踏み切るべきである。

検討する

村長

今後、指名審査会の中で検討する。

アルサスまでの 通行の見通しは



工事が進行中の臨港道路

大畑議員

今、盛んに臨港道路の橋を工事しているが、観光シーズンまで大瀬戸地区からアルサスまでの道路は開通できるのか。

四月上旬から 片側通行が可能

建設課長

漁港事務所から四月上旬には片側通行を可能にするという回答を得ている。

公約にどう取り組むか

川畑議員

村長は選挙中に六つの公約をしているが、十四年度予算に袋小路の解消と、奨学資金増額の二つが盛りされている。

今後、残された公約にどう取り組むのか。

創意工夫し

取り組む

村長

十四年度の予算編成時に、地方交付税がこんなに落ち込むとは思っていません。今回の公約も最低限度の



原田地区の袋小路が1ヶ所解消される

滞納整理

どう取り組んだ

川畑議員

人材育成のため、奨学資金五千円がアップされるようだが、奨学資金の滞納問題について、教育次長から十二月まで滞納整理に取り組んだ報告をするとの答弁があった。その後、どのようになっているか。

二回にわたり

督促状を発行

教育次長

十二月以降、二回にわたり督促状を発行した。四十三名の滞納者のうち、十九名は納入したり連絡があり、滞納分の取納は上がっている。

今後、会計年度の終末まで努力し、予算額をクリア

条例改正

あると思った

川畑議員

現在、奨学生本人に貸し付けする条例になっているが、先の議会で親御さんを対象にした貸し付けを考えるとの答弁があり、今回の議会に条例改正が提案されると思っていた。

委員会で検討中

教育次長

各市町村を調査の結果、奨学生のみで貸し付けている状況と法制的な問題もあり、現在、委員会で検討中である。

卒業生の就職率は

川畑議員

厳しい経済状況の中、高校卒業生の就職率はどうか。

大間高校で

二人就職未定

教育長

大間高校では当村出身の二十一名の卒業生中、女子二名が就職未定である。

ワークシェアリング

との関係は

川畑議員

緊急地域雇用対策事業五百九十四万円はワークシェアリングと関係はあるのか。

発掘調査に当てる

社会教育課長

ワークシェアリングとは関係なく、昨年度に引き続き発掘調査に当てる。

ラブリーさい販売事業

なぜ村直営に

島野委員

ラブリーさい販売事業を村直営事業に戻さなければならなかった理由とは。

村直営で

経費を節減

企画調整課長

行政改革の意向に添って民間委託したが、財政事情から直営にした方が経費の

節減ができるという考えから決断した。

理解に苦しむ

島野委員

財政改革の基本に立って民間委託したものである。

村の財政の確立を図るため移管したものを元に戻すことは理解に苦しむ。



ラブリーさい発送式

財源を絞り やむなく戻した

村長

当初は村の経費の軽減を図るため委託したものであるが、委託料の中で賃金が大きなウエイトを占めており、財源を絞った結果、やむなく元に戻した。

委託で発展

期待していた

島野委員

ラブリーさい販売事業こそ佐井村の村づくりの原点であったはずである。

民間に委託することにより、更に発展するものと期待していた。

マンネリ化が 会員の減少へ

村長

ラブリーさい販売事業も充実して拡張すべきであるが、商品のマンネリ化と今の通販時代に対応できなかったため会員が半減したものと考えている。

薬師山公園 今後の整備どうする

島野委員

薬師山生活環境保全林整備事業は平成十二年度で県の部分が完了し、平成十三年度では村単独事業で道路舗装及び駐車場整備の終わったよ

うである。

ところがトイレの整備と山村広場に通ずる道路が未完のようであり、平成十四年度の予算にも計上されていない。

徐々に

手をかける

村長

トイレ整備は十四年度実施する計画だったが、財政事情もあり予算計上でできなかった。

今後の財政状況をみて徐々に手をかける。

体育会 財政厳しい



村民が一同に集う体育大会

は従来どおり実施する。

開館できるか

ミュージアム

田中岩男委員

海峽ミュージアムは開館できるのか。

観光シーズン中

開館する

教育長

観光シーズン中は開館し、オフは閉館する考えである。

予算確保するため

やむを得なく

村長

十四年度予算を確保するため、やむを得なく中止せざるを得ないイベントがある。

ふるさとフェア、郷土芸能発表会は今年中止。がんかけ祭と村民体育大会は隔年、食談義及び花火大会



通年会館が望まれる海峡ミュージアム

海峡ミュージアム ぜひ通年開館を

山口委員

海峡ミュージアムの予算が昨年度の二百七十二万円から審議委員の報酬のみで四万五千円になっている。

アルサスは当初の観光の拠点であり、シンボルである。ミュージアムをオフに閉館することはアルサスそのものが淋しくなる。財政が厳しい状況は分かるが、通年開館はできないか。

役場内で

検討する

教育長

ミュージアムの通年開館となると予算が伴うので、役場内で検討する。

通年開館
絶対必要

山口委員

今年、新幹線が八百まで来ることで、観光客の増が期待できる。

当時の歴史、文化を売る絶好のチャンスであり、ミュージアムの開館は絶対必要である。

開館業務

職員で対応

村長

ミュージアムは完全に閉館するのではなく、今の職員体制で対応する。

展示方法

考えるべき

山口議員

ミュージアムのシャッターが閉まったままであればイメージダウンである。総体的に金のかからない展示方法など、根本的に考える必要がある。

金のかからない
展示を進めている

社会教育課長

昨年から当村の出土品を一部展示するなど、できる限り金のかからない方法で

展示業務を進めている。

ボランティアで
案内人養成を

山口議員

地元のアプローチを高め、村の活性化を図るため、ボランティアによる案内人を養成する考えはないか。

案内人

募ってみる

村長

ミュージアムの案内人を募ってみる。

売店の通年営業

要請できないか

山口委員

アルサスを観光の拠点として活用するため、売店の通年営業を村から強力要請できないか。

アルサス周辺

合わせて考える

村長

売店は十一月から閉店しており、アルサスに入ると何か殺風景である。アルサス周辺が賑わえば村の発展に貢献すると思うので、これらも合わせて考えたい。

植樹祭も取り止め

竹内委員

十四年度は植樹祭もなく、なるようだが、考え方を変わらせないか。

えて漁業がらみで海を育てるといふ観点から、国の補助事業を振り分けすることができないか。

制度調査し
検討する

農林水産課長

制度を調査研究し、検討する。



長後小中学校緑の少年団

交際費も大幅な削減

田中岩男委員

村長の交際費が昨年の百二十万円から五十万円と大幅に削減されている。

村内行事は
ご祝儀なし

村長

財政が厳しいことから議長の交際費も四十万円から

十万円にしていた。課長会議を開き、村内で開催のイベント、各種団体の会合などには一切ご祝儀は持っていないことで意志統一している。

村道古佐井山線

道路改修急ぐべき



整備が待たれる浄水場までの道路

大畑委員

県道栗原佐井線から浄水場に通じる道路は何ヶ所もひび割れし、道路とブロックの間に二十センチの隙間がある。

このままだとブロックが倒れる心配があるので、事業計画を立てて対処すべきである。

状況見ながら

対応する

建設課長

現段階では状況を見守りながら対処する。

袋小路
順番つけて解消を



長年の懸案である榛森地区の袋小路

福田委員

十四年度は原田地区の小原田川線が整備されるようだが、袋小路の解消は、今後、順番をつけて整備すべきである。

優先順位つけ

解消したい

村長

榛森地区も長年の懸案であり、矢越地区も有事の場合が心配である。できる範囲内で優先順位をつけて解消したい。

奨学資金滞納者

貸付け時は厳しく

福田委員

新規奨学資金の募集者の中に滞納者ほどのくらか。また、何%滞納金の回収を見込んでいるのか。

また、何%滞納金の回収を見込んでいるのか。

三十%の

回収率を設定

教育次長

また新規の奨学生の募集をしていないので分からない。

回収率は三十%を設定している。

滞納者を

どう処置するか

福田委員

応募した中に滞納者があつた場合、どのような処置を取るのか。

受けざる

を得ない

教育次長

一人の人間としての人格があるので、兄が滞納したから弟に許可しないという

問題ではない。

滞納分を払ってもらおうようお願いしながら、受けざるを得ない。

親にも責任ある

福田委員

親にも責任があると思うので、貸し付けする時は厳しく対応すべきである。

滞納整理に

努力する

教育次長

厳しく対応しているが、兄弟でも人格が進うことも考慮しなければならぬ。滞納整理は、我々が努力するしかない。

納得のいく進路で

市町村合併・村の存亡に関わる重大問題



市町村合併を考える勉強会

竹内議員
平成十七年度まで市町村合併をするとすれば、平成十四年度中に結論を出し、手続きに取り掛からなければ間に合わない」と講演などで聞いている。

「合併する、しない」の結論は別としても、なぜいま合併なのか、意義、必要性、メリット、デメリット、財政をはじめ様々な問題など、村民に十分認識していただき、検討会などを開催して納得の行く村の進路を決めるべきである。

慎重に進める

村長

国の地方交付税制度の改革がこのまま進めば、交付税に依存する当村にとって、今後の行財政運営が立ち行かなくなる大きな問題であり、市町村合併は避けて通れない問題だと認識している。

最終的には合併する、しない、また、合併する場合の組み合わせの選択など、村民の総意を踏まえ、慎重に進めなければならないと考えている。

説明会など

どう進めるか

竹内議員

村民への説明会、講習会、検討会をどのように進めるのか伺いたい。

地区ごと

説明会など実施

村長

合併問題に対する村民の認識が大事なので、今後の進め方として、各地区ごとの説明会やアンケート調査を実施し、村民の意向を把握する。

合併問題を協議する協議会の設置は、今後の検討課題である。



竹内典和議員



財政問題も深刻だが一人ひとりが輝く村政を

厳しい財政 何らかの打開策を

竹内議員

平成十四年度予算編成に当り、経費の節減、事務事業の見直し、更には人件費の減額をして節減しているようだが、このような小手先の改革では、もはや限界ではないか。

この際、思い切って合併問題も考慮し、数年先を見据えた抜本的な行政改革、構造改革をし、小さな行政を目指すべきではないか。更に厳しく、まだまだ続く財政不足の中、どのような改善策で財政運営をするのか。

行政経費全般

徹底的に見直す

村長

国の地方財政制度の抜本的な見直しが平成十四年度の子算編成を直撃し、歳出では想定外の圧縮を迫られた。

このような状況下にあっても、住民サービスの低下は許されない。村行政改革大綱実施計画を踏まえつつ、行政経費全般にわたり事務事業の改善方策、節減合理化により歳出を徹底的に見直しする。

水産振興基金運用益 取り崩し額は？

田中岩男議員

平成十四年度の水産振興事業計画は、水産振興基金の十億円の利用益を含む計画とすれば、運用益の取り崩し額はどれくらいか。

2196万円

村長

十億円から生ずる運用収益と、その他の三億円の残高と合わせて二千九百九十六万円である。

将来基金は

組合員に配分か

田中岩男議員

十億円の基金は漁協の金であり、将来は組合員に配分できると聞いている。

水産振興対策 のみ財源充当

農林水産課長

佐井村漁業協同組合が実施する水産振興対策のための事業などに要する財源充当するものである。



田中岩男議員

基金の取り崩し

できるのか

田中岩男議員

水産振興基金条例には、水産振興を図るための事業費に充てるべきと規定されているが、基金の十億円も取り崩しできるのか。

取り崩し できない

村長

基金の十億円は、大間原発との共存共栄に係わる協定書で、運用分の運用から生じる収益と限定されており、原則的に取り崩しはできない。



出納室

パイオフ解禁

公金は 大丈夫か

田中岩男議員

パイオフが四月一日から解禁になる。定期預金のうち元金一千万円と利息しか保証されない。公金の損失防止策を、ど

ベターな方法 検討中

収入役

防止策として、安全性の高い国債などに資金を移すとか、預金先の金融機関の経営をチェックし、破綻懸念が出たら手だてを講ずる組織をつくるとか、当面は定期預金を減らし、二千三年三月まで全額補償される普通預金に預け替える方法もある。最悪元本は守らなければならぬので、どの方法がベターなのか検討中である。

基金継続 できるか

田中岩男議員

水産振興基金十億円を信託連に定期預金している。信託連は資本

比率四％未満で金融庁から審査を受け、資本注入に苦慮し、県の援助で資本比率を確保したと聞いているが、

継続 できる

収入役

信託連加盟七十二団体

このまま基金の預金は継続できるのか。

価格の安定重要

シイタケ栽培事業

田中岩男議員

南床シイタケ栽培事業は価格の安定が重要である。

函館市場と青森市場との値段の差はあるのか。また、販売手数料、運賃料の格差を説明してほしい。

一バツクで 二十円程度

農林水産課長

その時期の相場によるが、一バツク二十円程度の差はある。

道路改善 計画あるのか

田中岩男議員

ハウスに通ずる道路にU字溝がないため、ハウス内に雨水が入っている。改善の予定はあるのか。

改善計画 今はない

村長

今は改善する計画はないが、利用者の理解を得て解消に努める。



菌床シイタケ

誰にも優しい 教育環境を



山口 捷夫 議員



緊張もほぐれやっとな笑顔：佐井小学校入学式

山口議員

平成十五年度に障害を持つ子供が佐井小学校への入学を希望していると聞いている。

赤十字の里づくりを目指す当村にとって、入学させることにより学校全体の情操教育にもなると思う。

施設の改修、バリアフリー対策が必要と思うが、改修計画があるとすれば規模、箇所、財政計画など現時点での概略を伺いたい。

屋外スロープ 設置など

教育次長

家族から佐井小学校入学の強い希望があり、県教育委員会をはじめ関係機関の助言を得ながら前向きに取り組んできた。村長はじめ庁内関係者と協議を重ね、入学を受け入れることを確認している。

児童には、安全で望ましい教育環境が必要な条件で

あり、十四年度予算に設計委託料を計上している。

工事費は事業費が確定次第、六月補正予算を考えている。

事業の概要は、屋外のスロープの設置、自動ドアの設置、トイレの改修、段差の解消、手すりの設置を考えている。

将来を見据えて 方策を講ずるべき

山口議員

小学校を卒業し、佐井中学校に入学するとすれば、六年後には中学校の改修も考えられる。

今から公共施設整備基金を積立てする方策を講ずるべきである。

話し合いし 進める

教育次長

佐井中学校は屋外スロープ、身障者トイレが完備されている。

玄関、多目的ホールに段差の解消が想定されるので、その時点まで財政当局と話し合いをして進める。

北通り1町2ヶ村 合併案も検討すべき



アルサスで開催された市町村合併セミナー

山口議員

市町村合併のこれからの取組みとして、むつ市、横浜町を交えた一市八町村による市町村合併研究会を立ち上げることだが、北通り一町二ヶ村の合併案も視野に入れ、村民との話し合いに加えてほしい。

視野に入れ 考える

村長

合併問題は、北通り一町二ヶ村の合併も視野に入れて考える。

土砂崩れ危険箇所

認識しているか

福田議員

土砂崩れの危険から不安を抱えて生活している方々がある。

危険箇所に対する対策をどのように考え、危険箇所はどのくらいあると認識し

ているか。

危険箇所は

三箇所

村長

磯谷の神社付近は、急傾斜地崩壊危険箇所及び地滑



矢越地区の土砂崩れ危険箇所

り危険区域になっている。

当該箇所は建設課で調査しているため、今後、関係機関と協議し、対策を講ずる。

危険箇所は川目、八幡家、磯谷の神社付近である。

危険箇所早急に

対処すべき

福田議員

矢越地区の危険箇所も早急に調査し、対処すべきである。

海岸事業で採択

要望している

建設課長

矢越地区の危険箇所は調査している。

海岸事業なので漁港事務所で採択されるよう要望している。



福田秋雄議員

清掃業者 広く募るべき

福田議員

一般廃棄物は平成十五年度からむつ市に運搬し処理されるが、現在までの経費と比較し増減はあるのか。

また、収集や分別方法に変更があるのか具体的に説明してほしい。

運搬経費

増減なし

村長

収集運搬経費は、ほとんど増減がない。



一般廃棄物処理場完成予想図

また、雑誌、新聞、チラシなどの紙類が新たに収集分別の対象となる。

競争入札を検討

したことあるか

福田議員

国は各種規制を撤廃し、自由競争制度に移行しつつあり、ゴミの収集運搬なども例外ではないと思う。

村内外の同業者を指名して競争入札にするなど検討したことがあるか。

基準クリアで

参加は可能

村長

廃棄物処理及び清掃に関する法律の一般廃棄物処理

新たな事業者

許可するか

福田議員

村内で新規に処理事業を起し、書類が整い参加したいという希望があれば、許可する考えはあるのか。

即答できない

村長

即答はできないが、既存の業者も頑張っている。

今後は、今以上に住民に対してのサービスに徹してくれると思われる。

完全学校週5日制

対策は万全か



田名部 武勇議員



しおさい公園

田名部議員
学校の完全週5日制に伴い、佐井中学校でもアンケート調査を実施した結果、不安を持っている家庭がほとんどのようである。非行の多発の恐れ、子供

にゆとりと自由を与える意義とは裏腹に高校受験生を持つ家庭では学習塾がないため学力の低下など大きな不安を抱えているのが実情のようである。
教育委員会としてどのように捉え、どのような対策を考えているか。

学校と協力し 対処する

教育長

非行問題は、学校と協力しながら対処する。

学力の低下問題は、各校の個性を生かした個別指導の徹底に努めていただくようお願いし、解消を図る。

補習授業など 対応どうなる？

田名部議員

小学校では教科担任制度を導入や、放課後の補習事業も実施されると言われているが、補習授業の時間外勤務の時間給とか臨時講師の対応はどうなるのか。

具体的な方法 明らかでない

教育長

新聞などでは到達度の低い子供に補習をすとか、宿題を出すと報道されているが、まだ具体的にどの方法で実施するのか明らかでない。

円滑な実施への 取組みは

田名部議員

週5日制の円滑な実施に

当つての推進体制や受け皿問題、また、地域への啓発についての取組みを説明してほしい。

風づくりなど 試験的に実施

教育長

学校、家庭、地域社会が一体となり、それぞれの機能を発揮し、子供たちが自然体験などを行なう機会を増やしてきた。

三年前からは冬季間に限り、学校が休みの土曜日に子供映画館の開設や、風づくり事業を試験的に実施している。

ミュージアム 子供は無料で

田名部議員

文化芸術振興基本法の施行に伴い、県の郷土館、棟方志功記念館など児童、生徒は入観無料となった。

当村のミュージアムも、子供の無料化を実現すべきである。

団体は無料で 対応する

村長

児童生徒に対し、教育の一環として団体での申し込

みには無料で対応する。

遊び場の 整備計画は？

田名部議員

当村に遊び場があるのは学校と保育所を除けば三地区だけで、遊び場が少ない。今後の施設整備計画はあるのか。

恵まれた 自然を相手に

村長

遊び場の整備充実は、今の村の経済状況を考えると非常に厳しい状況にある。

既存の遊び場だけでなく、恵まれた自然を相手に元気に駆け回り、強くたくましく、豊かな心、相手を思いやる佐井っ子に育ってほしいと期待している。

シイタケ栽培事業 経営安定が肝要



宮川尚議員



菌床シイタケ栽培ハウス

宮川議員
菌床シイタケ栽培生産組合が五名で組織され、一年が経過した。
昨年十月、産業建設常任委員会活動で、はまなす農協佐井支所を訪問した際、夏菌を導入して通年出荷を目指すし、生産高を高めるといふ話を聞き、大変良いことだと思っている。
その後、経営安定を図る

ため、どのように取組んでいるのか。
**夏菌導入で
通年出荷は確立**
村長
夏菌を導入し通年出荷を目指す計画は、今のところ生産者は二名である。
生産量は少ないが通年出荷は確立される。

空きハウスの有効利用を図る

農林水産課長

菌床シイタケ栽培は一年を経過したが、まだ技術が確立されていない。
更に実績を踏まえ、今後の推移を見守りながら、生産者の夏菌の導入、空きハウスの有効利用を視野に入れて考える。

施設使用料
免除か

宮川議員

村きのこ生産集出荷施設の設置及び管理条例に使用料の免除があるが、適用しているか。

集出荷施設
無料で提供

村長

集出荷施設使用料は無料である。
培養ハウス、発生ハウスは一棟につき年額二万五千円を徴収し、ハウスの保険料や将来の維持補修に要する経費として当てられる。

休日利用し 多彩な体験を

宮川議員

学校週五日制はこれから続く制度である。

子ども会、スポーツ関係、PTA、芸能保存会などの行事を利用して、二日の休みをはめ込む事業を考えているか。

特色いかした
活動へ

社会教育課長

子ども会、スポーツ少年

団は学校に頼る部分が多く、一般からだけ指導者を確保できるかが問題である。
各地区では公民館や郷土芸能団体などが子供たちに自発的に教えるという状況もあり、それぞれ地域の特色を活かした自立的な活動を力を入れたい。



「ゆとり」の教育掲げ学校週5日制がスタート